

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	東京工業大学
整理番号	A06
構想名	真の国際化のためのガバナンス改革によるTokyo Tech Qualityの深化と浸透

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、学長の強いイニシアティブの下で教育改革と研究力強化を進め、現在の高い研究力を更に発展させ、国際水準での最先端研究・教育の推進と人材育成のための体制を実現することを目的としており、全体として目標達成に向けた取組を強い意志を持って着実に推進しているものと判断する。</p> <p>教育改革においては、学部と大学院を一体化し、学問領域を大括りに統合・再編した「学院」の創設や、学生が広い視野で俯瞰的かつ体系的に学ぶことを重視した教育体制の整備を行う中で、世界水準に向けた教育カリキュラムの構築を進めるとともに、教育プログラムの世界発信、国際競争力の強化を図っている。これらの工夫は、我が国の大学の教育力強化・国際化に向けた一つのモデルとなり得るものであり、独自性のある取組として注目される。それぞれの教育改革は緒に就いたばかりであり、例えば、リベラルアーツの重視に加えて、専門教育においても大学としての独自性を強化・可視化していくなど、目標達成に向けた更なる検討・改善を進めていくことにより、グローバル社会で活躍する、専門性とリーダーシップを兼ね備えた人材育成の強化が期待出来る。</p> <p>研究力強化においても、「科学技術創成研究院 (IIR)」を設置し、その中に世界の研究ハブを目指す「Tokyo Tech World Research Hub Initiative (WRHI)」を構築し、50名以上の外国人研究者を招聘するなど、意欲的な取組を進めている。今後、世界一にランクされる強みのある研究分野が生まれることを期待したい。</p> <p>さらに、教育・研究改革を進めるガバナンス強化に向けて、学長を議長とする「戦略統括会議」を設置し、また、教員人事を全学体制で管理する「人事委員会」を設置する等の改革を進め、全学一体となって取組を推進する体制を構築している点も評価出来る。</p> <p>一方で、日本人学生に占める留学経験者の割合や、大学間協定に基づく受入外国人留学生数、外国人教員等や女性教員の比率、外国語による授業科目数の割合等、教育研究環境の多様化・国際化に向けた取組には課題が残されている。また、研究面・教育面における海外機関との組織的連携についても準備的段階と考えられ、その具体化・強化が必要である。今後、これらの取組の更なる拡充により、大学の国際化・国際競争力の強化が進むことを期待する。</p>	